

## 2022年度 独創的研究助成費 実績報告書

2023年 3月24日

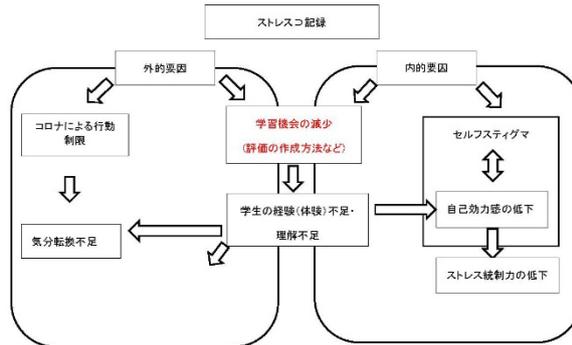
報告者	学科名	看護学科	職名	教授	氏名	関根紳太郎
研究課題	看護実践の質的向上に資する社会言語学アプローチの有効性に関する研究					
研究組織	氏名	所属・職		専門分野	役割分担	
	代表	関根紳太郎	看護学科・教授	社会言語学	研究責任者	
	分担者					
研究実績の概要	<p>本研究では、看護学の学際性（実践を主とする看護において、その理論的参照枠としてさまざまな学問領域が援用可能であるということ）、特に社会言語学との学術的親和性（学問的に違和感なく調和するという点）に着目し、継続的に研究をすすめることで、看護研究の発展に資することを目的とする。具体的には、コーパスと呼ばれる言語データベースを活用した量的分析とディスコースという「社会文化的意味をもった言葉のまとまり」を捉える質的考察により、言葉に置き換えられたさまざまな看護学および看護教育に関連する事象を明らかにしていくことをねらいとする。そして、看護学および看護教育学における社会言語学的アプローチが、特にアンケート調査の自由記述欄などに内在する意味や概念の抽出に有効であるという点について実証的に考察する。最後に、本研究の成果を学内紀要、卒業論文（執筆指導）、学会発表等において学術的エビデンスを残すことで、従来からある看護学の質的研究にコーパスおよびディスコース分析を活用した社会言語的手法という独創性・新規性を導入したい。</p> <p>本年度は、看護教育の一環である臨地実習時のストレス感について無記名アンケート調査における自由記述欄を分析対象としてコーパス分析とディコース分析を試みる。分析と結果は、次の通りである。</p> <p>研究キーワード（ストレス）について、看護系大学生の4年生を対象とするオンライン自由記述式のアンケート調査を実施し、言葉のデータベース（ストレスコーパス）を構築した。コーパス分析にあたり、まず、コーパスデータの形態素解析を行い、コーパス解析ソフトであるコンコーダンサーが読み込み可能な状態に整えた。本研究では、形態素解析にはSegmentAntを、コンコーダンサーにはAntConcを使用した。次にAntConcを用いて、分析対象コーパスおよび参照コーパスから特徴語の抽出を試みた。特徴語の抽出にあたり、統計的指標としては、対数尤度比(Log-Likelihood score)を用いた。分析対象とする特徴語のしきい値は100以上を設定した。そして、コーパス分析から抽出された特徴語を内包するディスコースを検証し、関連語を抽出するとともに、一次的および二次的類型化を行った。最後に特徴語を含むディスコース分析から、研究キーワード(ストレス感)の意味要素について考察した。</p> <p>結果として、A大学看護学科の4年次の学生からは31件の回答が得られ、回収率は82.5%であった。分析対象コーパス（ストレスコーパス）の総語数は1800語、参照コーパスは20577語であった。</p>					

※ 次ページに続く

研究実績  
の概要

分析対象となる特徴語を内包するすべての用例に対してディスコース分析を行い、研究キーワードであるストレスの意味要素となる関連語を抽出し、それらを一次的類型化と二次的類型化とした。一次的類型化と二次的類型化から、「記録に対する経験不足・理解不足」「自己効力感の低下」「気分転換不足」「睡眠不足」などが顕在化した。

結論として、コロナ禍の実習ストレスに関する看護系大学生のアンケート調査から、看護系大学生の記録作成に対する経験不足・理解不足が記録作成の作業時間の増加につながり、(少なからず)睡眠不足や気分転換不足に影響していることがわかった。特に、記録作成に対する経験不足や理解不足の背景には、新型コロナウイルスの影響による実習時間の短縮やオンライン実習などの実習方法の変更、それゆえ看護過程に対する成功体験の不足と、それにとまなう自己効力感の低下が示唆された。



【ストレス感の概念図】

成果資料目録